



# 「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」レポート

これは、尾張徳川家の初代、義直が大切にしていた金盃です。



銀溜白系威具足 一領 江戸時代 17世紀 徳川美術館 【通期展示】

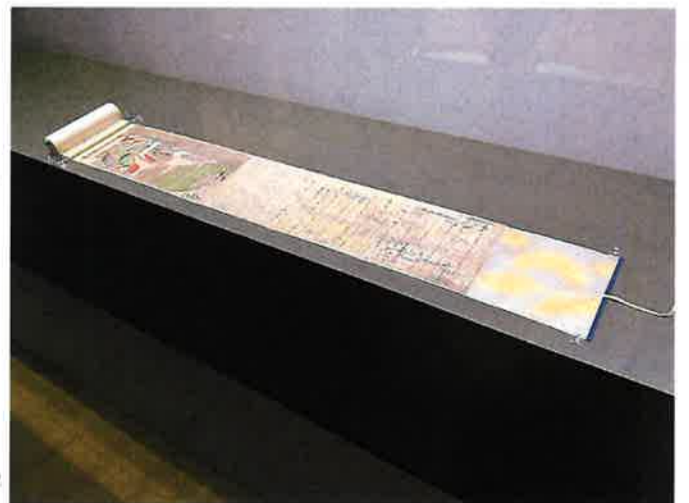
徳川義直はたくさんのお金を持っていたが、なかでもこの「銀溜白系威具足」が特に気に入っていたそうです。学芸員の方のお話によると、鬼の形でまん中が太陽をイメージしており、木葉のこんがりを持つ部分がくわがたの形にしているそうです。

そして、この「銀溜白系威具足」は、今から約400年前、江戸時代のもので、

お客さんのみなさんは、「わ〜、金盃だ!」、実際に見てみると、こいねとせら 賛の様子が見られました。みなさんも実際に足を運んで見てください!

この『源氏物語絵巻 橋姫』は、約1000年前の平安時代に書かれました。製作者は紫式部です。字と絵がセットになっていることで、とても物語が想像しやすい形になっています。

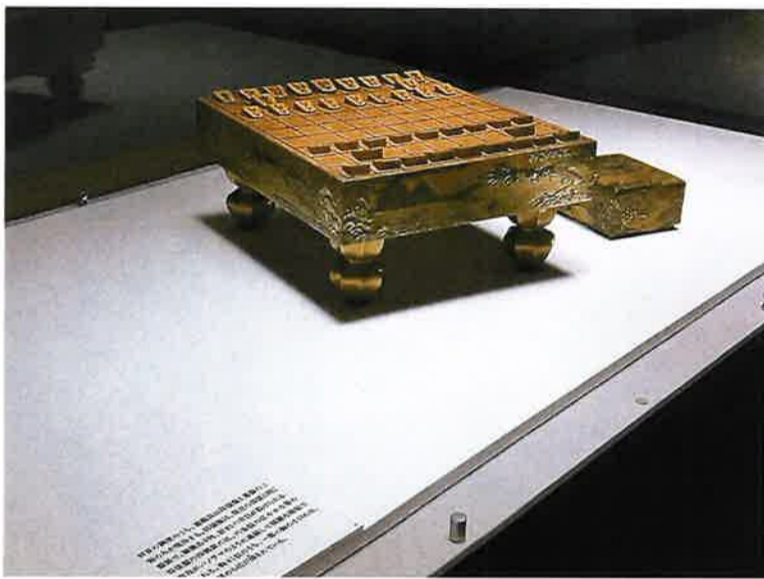
この物語を簡単にしますと、【夜にきょうとからはなれた所で、姉・妹が月光に照らされながら、楽しみびわとことを弾いている】たそうです。ぼくはこの絵巻を見た時に、パツと思っただけが、「写真と全然違うな〜」です。実際に見ると、紙がすれて、所々欠けているのがわかり、歴史というものを感しました。この作品は、実際に見るとわがりますが、とてもすごい作品なので、ぜひ一度でも見に来てはいいかかてしようか。



国宝 源氏物語絵巻 橋姫 一巻 平安時代 12世紀 徳川美術館 【展示期間: 7/31~8/15】



# 「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」レポート



国宝 胡蝶蒔絵将棋盤・駒箱 一揃 江戸時代 寛永16年(1639)  
徳川美術館 【展示期間: 7/31~9/1】

こちらは、国宝に指ていされている、  
胡蝶蒔絵将棋盤・駒箱です。  
僕は、この将棋盤の横部分の絵が「でこぼこ」  
しているのが素敵だと思えます。

将棋盤の横の組には、葵の糸文が書かれて  
います。1つの面につき、2つの葵の糸文が  
かかれていますので、かんしゅうついでに探してみるのもおもしろい  
と思います。

実は、なんとこの将棋の駒は手書きで作られて  
います。将棋のルールも変わらずにある  
そうです。

周りのお客さんも、「わ〜、将棋だ!」みたいな  
反響で、将棋があることにとってもおどろいて  
いました。

## 質問したこと!

Qこの展示を作るのに、どれくらいかかりましたか?

A.: 3~4年くらい!!

最低でも2年はかかります。ですが、2年以上の  
時間をかけることでよりよい展示を作ることが  
できる。

そして、展示できる日数も決めるよ〜。

ちよっせいに時間がいるらしいので、大変です。